

2016「岩手県山田町5年目の今!」・・・田老・語り部さん

2016年 7月1～3日

氏名・(会員番号)	玉井 裕利 (89)	参加回数 2回	1回目・2013.3/24～石巻、気仙沼 2回目・・・今回 山田町
3. 田老地区 (7/2)	田老・語り部 (女性) さん 元気ある声で1時間現地の説明と案内をしてくれました。		
印象に残ったこと	1. 田老の主な災害と反省 ①明治29年 犠牲者 1859人 ②昭和 8年 犠牲者 911人 ③平成23年 犠牲者 181人 過去の犠牲から、「津波防災の町宣言」平成15年3月を表明する町であったが、今回の巨大津波に対しては防波堤の高さ強度が不足していた。また、巨大地震に対する津波の来る時間(30～50分)に対する周知がなかった。 2 「たろう観光ホテル」 6階の社長室から社長が田老湾全体の津波被害を撮影しビデオ記録した。その生ナマしい記録を6階の部屋だけで見開していない。 ホテル建屋の1～3階は津波が通り抜けて鉄骨だけになってしまった。鉄さび状態が判かるように透明塗料で見学者が見易いように処置されていた。 3. 「たろう製氷貯氷施設の津波水位」 この製氷設備には壁に津波水位表示がしてあり、岸壁から見上げると明治の15.0m 今回の17.3mは恐ろしく高い潮位であった。 4. 「防潮堤」 古いものは、転倒していたり、破壊されているものがあり、土木技術に対する不信を感じる場所であった。 有名な第1、第2、第3の防潮堤があり旧防潮堤を1部補強して、高さを変えて復旧して内部には立派な野球場が作られ野球が行われていた。 産業の復旧は、太陽光発電のパネルと漁協加工場ぐらいで、民間の工場や商店の進出は殆ど見当たらない状況です。 防潮堤の高さを上げずに補強だけで復旧することは、巨大津波への避難行動の時間稼ぎへの対応に見直しての設計であり、背の高い不評の防潮堤といずれを選択するか考え方は、個々の市長村により異なっている? (参考) 1. 田老第一中学校校歌 三、防浪堤を 仰ぎみよ 試練の津波 幾たびぞ 乗り越えてし わが郷土 父祖の偉業や 跡つがん o 立派な防波堤を讃えており、巨大津波に対する、逃げの教育が不足したのか。 2. 記念碑・・・昭和9年3月 一、大地震の後には津浪が来る 一、地震があったら此処へ来て一時間我慢せ 一、津浪に襲われたら何処でも此の位い高所へ逃げろ 一、遠くへ逃げては津浪に追付かる 一、常に近くの高い所を用意して置け o 近くの高い所で地震があったら1時間は我慢を		



提言など	1. 大地震と津波警報について 東北大地震の震源域は宮城沖 1 5 0 k m の太平洋プレートの沈み込む付近と想定されていたが、現実には 2 0 0 k m 以上に及ぶ大規模であり、気象庁は津波警報 3 分以内も 3 分も続く地震に対して出すのは厳しいことであったと思うが、 14 : 49 分 (岩手県 3 m、宮城県 6 m、福島県 3 m、太平洋沿岸 1 m) 15 : 14 分 (岩手県 6 m、宮城県 1 0 m 以上、福島県 6 m、太平洋沿岸 3 m) 15 : 30 分 (岩手 10 m 以上、宮城 1 0 m 以上、福島 10 m 以上、太平洋沿岸 8 m) 16 : 08 分 (岩手 10 m 以上、宮城 1 0 m 以上、福島 10 m 以上、太平洋沿岸 10 m 以上) この警報は津波の到達を知ってから追っかけて出した様なものになっている。 この時も G P S による津波計測装置があり、地震域から 7 6 k m 地点で津波計測をしておりその波の波高から沿岸では 3 0 m を超えると予測していたが気象庁とはリンクしていなかった。(15 分前には 3 0 m 超えの警報がだせたであろう) 2. 今回の大震災後、国交省は慌てて東北の太平洋沿岸に地震津波観測装置を東南海地域に引き続き設置した。 東南海トラフは陸に近いので地震発生から津波の来襲時間が短いので、避難時間が短くなる。 3. 東北大震災の M 予測でも、東京一 5 強、名古屋一 4、大阪一 3 で揺れている中で大阪とも相談して、宮城沖の予想地点の発生として M7.9 だろうとした？ 7 ~ 800 k m 離れた大阪でも 3 分も揺れる地震はどのような規模か、気象庁のプロが判断出来ないとはならないのでは？ M9.0 は 3/15 日やと修正された。 なお、同じ気象庁の松代精密地震観測所では地震の 10 分後には M9.1 を出していた 4. 震度 6 以上で 1 分 ~ 3 分も続く場合は、その住民は津波を警戒して避難する本館身につける必要があり「津波てんでんこ」と同様に日本人は未来に引継ぐことを忘れてはならない。明治、昭和の津波すら想定して行動出来た人が余り居なかったようである。 東京直下型か東南海トラフ型かその揺れ方からある程度判断して逃げることを我々も常日頃、頭に留めて置かなければならない。 5. 防災塾だるまの活動に於ける地震時の自身の避難経路、避難拠点、どんな活動等が勉強会をしておきたい、特に「美珍」にいて首都圏直下型震度 7 が発生したときにどうなるのか？どうするのか？ また神奈川大学から自宅まで帰る方法の検討、港未来の研修センターから避難？避難マップの作成は良い勉強になるのでは！！   
------	--